

【こんな交流館がいいな】 各班ごとの内容

A班 名称：「交流館ホトトギス」

- ①カフェやイートインスペースでお茶飲みや飲み会ができる。カフェは有料と無料に分けることで目的に合った使い方ができるのでは。
- ②横断歩道で商業エリアと繋がる。人が安全に行き来できるとよい。
- ③建物内部は自由に移動できる。ガラス張りで見えて、魅力のある建物。



B班 名称：「とにかく人が集まる交流館」

- ①とにかく人が集まる場所になることが一番重要。自由に入出りができ、人の気配を感じる。人が会う。
- ②子どもが安心できる交流館。子どもがいるとみんなが和む。
- ③皆に魅力的な交流館。木を使いあたたかみがある。ならば復活の象徴になる建物。



C班 名称：「みんなの広場」

- ①ガラスを多用した見通しがきく建物。
- ②コンクリートの冷たい雰囲気ではなく、木が多い施設。古民家のような温かみがある。
- ③入口が複数あり、気楽に入ることができる施設。入口近くにカフェがあれば用がなくても、一人でも気楽に入れるのではないかな。入りやすさが大切。



D班 名称：「ゆずりあう館」

- ①濡れ縁があり、四方から入れる。土足で上がれて入りやすい。
- ②みんなで囲める囲炉裏があり、そこで魚を焼いたりお酒を飲んだりできる。
- ③ひろばではフリーマーケットや、産直市ができるといい。四季の花を植え、子どもの遊び場になる。



◆問合せ 榎葉町復興推進課 0240-23-6103

第二号

発行：(一社)ならはみらい



ならは交流館だより

～速報版～

平成28年11月6日(日)、「第二回ならは交流館お茶飲み会」が開催されました。10月16日の第一回お茶飲み会に続き、たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございます！
 今回のお茶飲み会では「あなたもまちの建築家～できたらいいな、こんな交流館～」と題し、4つの班に分かれて活動してもらいました。交流館の敷地に実際に立ち、それを踏まえて「交流館のこの場所でこんなことができるといい」という考えをみなさんで出し合い、まとめていただきました。ここではすべて書ききれなくて大変残念ですが、抜粋した一部をご紹介します。
 (ならはみらい)

※今回もたくさんのお茶菓子を持ち寄っていただきました！ありがとうございました！



司会進行は前回から引き続き、立命館大学の乾亨教授。助手は昨年度ならはみらいで働いていた西崎芽衣さんです。会を楽しく盛り上げていただきました。

【敷地で考えよう】

今回はまず最初に敷地へ向かいました。交流館や、敷地奥に計画されているスーパーの建つ予定の場所に旗を立て、交流館と周りとの関係についてイメージしていただきました。

- ①「ひとはどこから来るか」
 - ②「交流館からの眺めはどうか」
 - ③「周辺の施設との関係はどうか」
- などのチェック項目を班ごとに確認してもらいました。なかでも西側のホトトギス山が見えること、北側のスーパーとの行き来を安全にやすくしたいということ、出入り口を多くの面につくりどこからでも入れるようにしたい、という声は複数の班で挙げられていました。



その後会場へ戻り、【こんな交流館がいいな】というテーマで話し合ってもらいました。

【今後のみんなの「ならは交流館(仮)」を創るためのお茶飲み会の予定】

- ◆日時 第3回 11月27日(日) 13:30～16:00
- 第4回 12月18日(日) 13:30～16:00
- ◆場所 あおぞらこども園サロン「ふらっと」
- ◆対象者 参加自由
- ◆主催 榎葉町
- ◆問合せ 榎葉町復興推進課 0240-23-6103



第1・2回の意見をもとにした専門家案を提案します。みんなの想いが活かされているか評価してください。初めての方も、どんな交流館ができるのかぜひ見に来てください。注文をつける最後のチャンスです。

